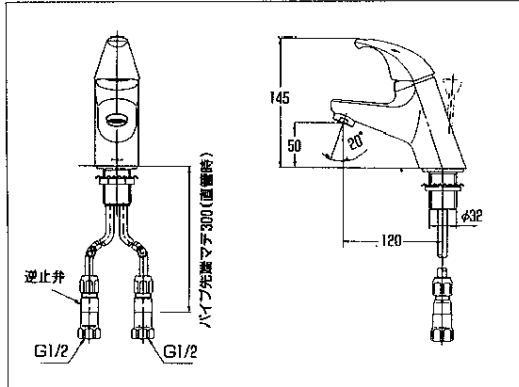


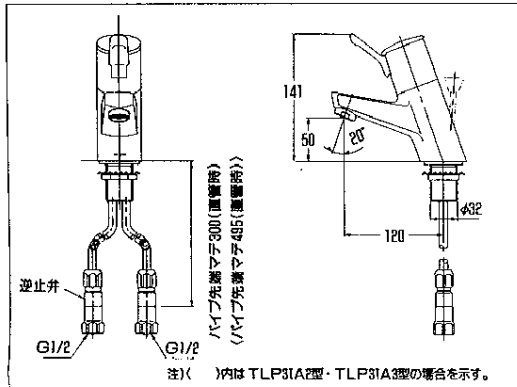
製品の機能が十分発揮されるように、この施工説明書の内容にそって正しく取付けてください。

完成図

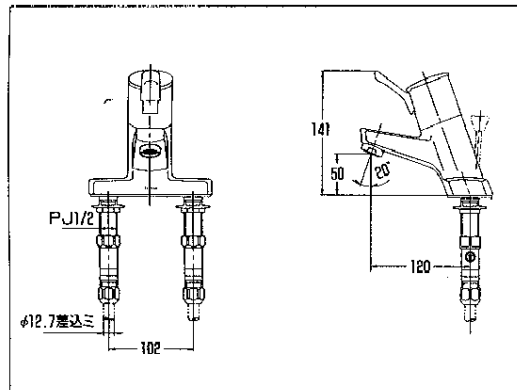
TLP31A1型 TLP31A4型
(ポップアップ穴無し品)



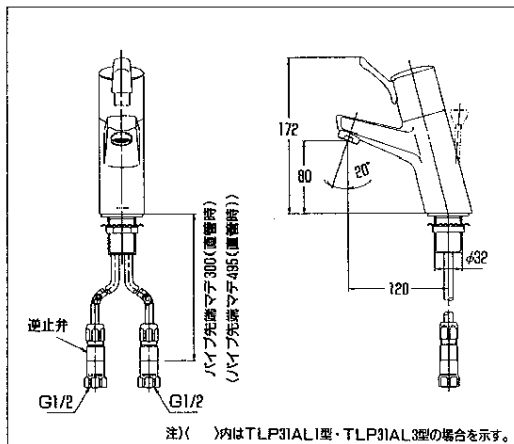
TLP31A2型 TLP31A2型 TLP31A3型
(ポップアップ穴無し品)



TLP31A型



TLP31AL型 TLP31AL1型 TLP31AL3型
(ポップアップ穴無し品)



※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

使用条件

1. 使用水圧

(1)瞬間型給湯機と組合せる場合

給水圧力 { 最低必要水圧……(下表参照)
最高水圧……………0.74MPa(7.5kgf/cm²)
器具入口部における最低必要水圧 (MPa (kgf/cm²))

給湯器の種類	号数	最低必要水圧
能力手動切替タイプ	12号	A+0.51(5.1)
	10号	0.07(0.7)
	20号	0.08(0.8)
TOTOカスタム制御方式	18号	0.05(0.5)
	16号	
	20号	
	24号	
TOTOトリコン制御方式 (トリコンコンタクト・アクティ)	アクティ	0.04(0.4)
	スーパーアクティ	
	32号	
TOTOハイドリコン制御方式	21号	0.04(0.4)
	24号	
TOTOコマンド	18号	0.07(0.7)
	24号	
TOTOハイコマンド	21号	0.04(0.4)
	24号	

注) 表中のAは給湯機の最低作動水圧を示します。
(比例制御タイプにはこの数値が含まれています。)

《設定条件》

- レバーハンドルは中央の位置で全開
 - 吐水は泡まつ吐水
 - 吐水温度：38℃
 - 給湯配管長さ：5m
 - 給湯機が着火する下限の圧力とする。
 - 水温の高い(25℃)夏期に着火させることを想定。
 - 能力手動切替タイプの出湯温度は最高温度に設定。
 - 比例制御タイプの出湯温度：60℃
- ※能力手動切替タイプで水温が高く着火しにくい場合は、能力を小さく切替えると着火しやすくなります。

(2)貯湯式温水器と組合せる場合

給水・給湯圧力 { 最低必要圧力……0.05MPa(0.5kgf/cm²)
最高圧力……………0.74MPa(7.5kgf/cm²)

給水圧力は給湯圧力より必ず高くするが、同圧になるようにしてください。

2. 給湯に蒸気を使用しないでください。

3. 湯水を逆配管しないでください。

給水パイプには○ラベルを、給湯パイプには△ラベルを貼付けています。

なお、給湯機からの給湯管は抵抗を少なくするため最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。

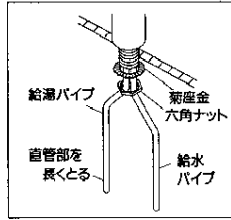
器具の取付け

1. 給水管内の清掃

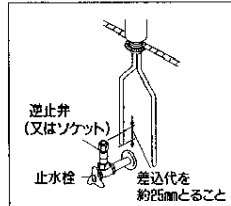
器具を取付ける前に必ず給水管内のごみ、砂などを完全に洗い流してください。

2. 止水栓の取付け

(1)混合栓本体が正面を向くように仮固定し、給水・給湯パイプを止水栓の取出し位置に合うように曲げ広げてください。このとき、できるだけ直管部が長くなるようにしてください。また、給水・給湯パイプがつぶれないように注意してください。

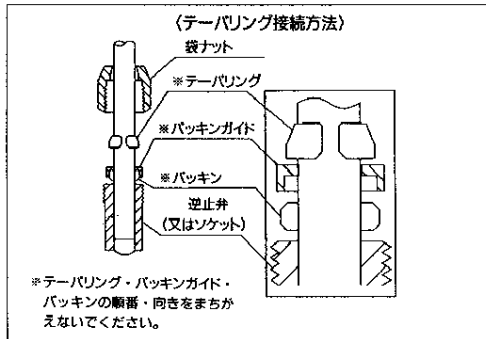
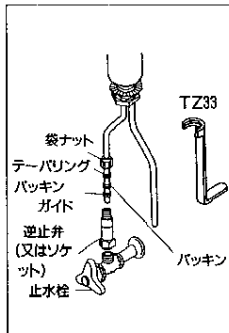


(2)逆止弁(寒冷地の場合はソケット)を止水栓に仮固定した後、給水・給湯パイプの必要長さをあたり切断してください。このとき、パイプの差込代は約25mm確保してください。



(3)給水・給湯パイプに袋ナット、テーパリング、バックンガイド、バックンの順に入れて、逆止弁(又はソケット)を差込んでください。次に逆止弁(又はソケット)を止水栓にねじ込み、混合栓本体を本固定してください。固定には別売りのナット締付専用工具(TZ33)を利用して確実に閉めてください。

※混合栓本体を固定するときは、取付穴周囲の汚れを取り、セパレート紙をはがしてください。

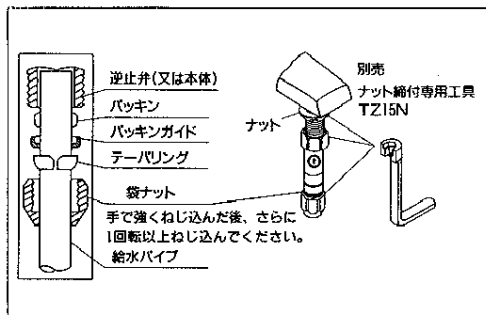


(4)最後に給水・給湯パイプを逆止弁(又はソケット)に押しつけ、手締後1回転以上締付けてください。

(注)給水・給湯パイプの抜け防止のため、給水・給湯配管は動かないよう確実に固定してください。

TLP30AX、TLP30AZKXの場合

混合栓本体を固定するときは、取付穴周囲の汚れをとり、別売のナット締付専用工具(TZ15N)を利用して確実に締付けてください。



※差込み給水・給湯パイプに袋ナットを入れ、テーパリング、バックンガイド、バックンの順番・向きをまちがえないように接続してください。

寒冷地用の水抜方法

寒冷地用の場合は器具内の水を抜くため、水抜コックを設けております。凍結のおそれのある時期に施工された場合は、水抜栓の操作とあわせて次の要領で水抜きをしておいてください。また、お客様にも水抜方法をご指導ください。

(1)レバーハンドルを中央位置(湯側・水側の中間)で下げる。
(2)水抜コックを開く。

お手入れ

器具がいつまでも美しさを保つように、お客様にお手入れ方法をご指導ください。

- ふだんは柔らかな布でふき、ときどきシンナー油やカーワックスなどをしみこませた布でふくこと。ただし、樹脂部に付着すると光沢を失うので付着しないよう十分注意すること。
- クレンザーやみがき粉など粗い粒子を含んだ洗剤やナイロンたわしなどは使用しないこと。
- 酸性洗剤はめっきを侵しますので使用しないこと。もしタイルを酸性洗剤で洗った場合は、すぐにタイル及び器具を十分水洗いすること。

使用上の注意

この商品は、ウォーターハンマー低減機構を採用しております。レバーハンドルを早く操作しようとすると、抵抗感が発生し重く感じることがありますが故障ではありません。レバーハンドルがロックして水が止まらなくなった場合は、一度全開にして再度ゆっくり閉めてください。

分解と点検

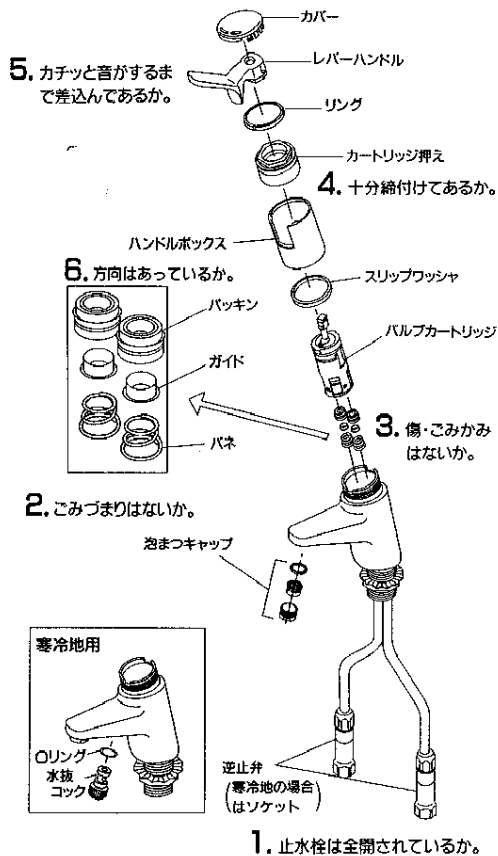
取付後 万一故障などで分解するときは、次の要領で行ってください。

ご注意

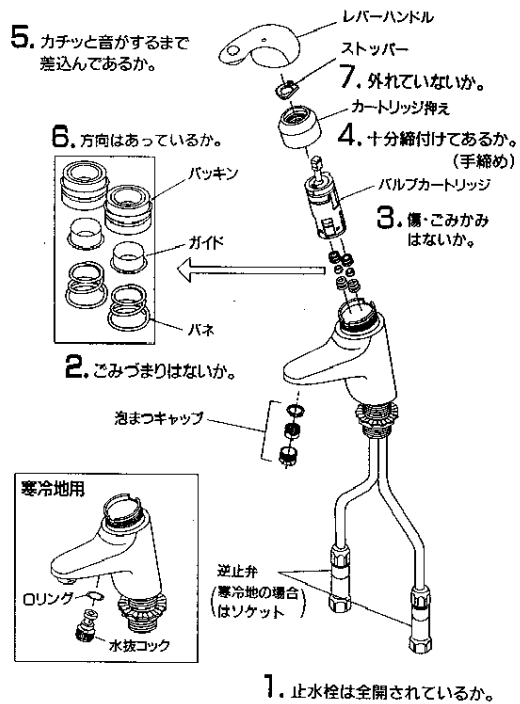
バルブ部カートリッジ内部は精密加工された特殊セラミックバルブを相対調整しておりますので、絶対に分解しないでください。

現象	点検箇所	TLP30A型 TLP31A型 TLP31A2型 TLP31A3型 TLP31AL型 TLP31AL1型 TLP31AL3型 の場合	(別売) カートリッジ締付 専用工具(TZ39)		
吐水量が少ない	1・2	(別売) 締付専用工具 (TZ39)	(別売) 締付専用工具 (TZ15N)		
水が止まらない	3・4・6・7				
吐水温度不良	1・2				
ハンドルがガタつく	5				
TLP31A型 TLP31A1型 TLP31A2型 TLP31A3型 TLP31AL型 TLP31AL1型 TLP31AL3型 の場合					
TLP30A型 の場合					
TLP31A型 TLP31A1型 TLP31A2型 TLP31A3型 TLP31AL型 TLP31AL1型 TLP31AL3型 の場合					

TLP31A型、TLP31A2型、TLP31A3型
TLP31AL型、TLP31AL1型、TLP31AL3型

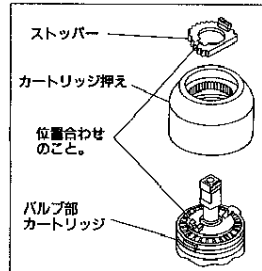


TLP31A1型、TLP31A4型



点検時の注意

カートリッジ押えは、手締めにて締め付け、工具は使用しないでください。再セットされる際に、ストッパーを組込む時は、カートリッジ側凸部とストッパー側凹部を合わせて押込んでください。その際カートリッジ押えの内側の歯とストッパーの外側の歯が合わない時は、カートリッジ押えを締め込む方向にて歯を合わせるように調整してください。



TLP30A型

